



## スイカ(トンネル)

# 着果は15~20節を目標

— 田中義弘

大きめに切ったスイカにかぶりつく。まさに夏の風物詩です。近年は施設栽培の導入により、初夏の早い時期から店頭には並んでいますが、俳句の季語は初秋。かつては立秋以降に多く出回っていたのでしょう。

スイカの原産地は熱帯アフリカの乾燥地帯で、エジプトでは4千年も前に栽培されており、これが中国やヨーロッパを経て17世紀に日本に伝わったとされます。その後、明治中期にアメリカから新たな品種が導入され、現在のスイカのもととなる大和スイカの出現につながっています。

水分の多い果実であることを、英名の「ウォーターメロン」が示しています。水分の多さから、栄養価が低いと思われがちですが、カリウム、鉄分、ビタミン類、リコピンなどをバランスよく含み、優れた利尿作用があるといわれています。

今回は、トンネル早出し栽培を紹介します。

発芽適温は30度、生育適温は18~28度で多日照を好みます。種まき期は1~3月、定植期は3~4月で地温15度以上が必要です。

スイカは土壌病害に弱いため、接ぎ木苗がお勧めです。日当たりがよく、排水のよいほ場を準備します。本ぼは1平方メートル当たり苦土石灰100グラム、堆肥2キログラム、緩効性の化学肥料70グラム(3要素15%の場合)を目安に施します。幅1メートル、高さ10センチ程度のうねを作り、黒ポリ

リでマルチをし、POフィルムなどで幅1~2メートルをトンネル被覆します。地温上昇効果で生育が良くなるので、定植から2週間前までには準備しましょう。

本葉5枚程度の購入した苗を株間60~80センチに浅植えし、日中30度、夜間15度を目標に管理します。本葉6枚で摘心し、伸びた子づるを一方向に3~4本伸ばします。受粉は昆虫切活動が盛んになるまでは、人工授粉が必要です。

着果節位は15~20節を目標とします。ちょうど株元から3番目くらいの雌花になります。早く咲いた雌花

は摘花し、着果節位下の孫づるも除去します。つるが1メートルくらいになったら、着果位置がトンネル内になるよう、株元の方向につる下げを行います。

果実を着けない遊びづるは、草勢維持や果実の肥大を助けます。草勢を維持すると2、3番果まで期待できます。

成熟日数は大玉種で45日、小玉種で35日前後です。開花日別に色分けした棒を立てるなどして適期に収穫しましょう。

(鹿児島県農業開発総合センター園芸作物部野菜研究室主任研究員)

